

メルマガ Vol. 6

大橋昌資

(医療法人啓夏会 響ストレスケア~こころとからだの診療所 理事長・院長)

リワーク協会会員の皆様

引き続き、大変な状況で診療、リワークプログラムを続けてらっしゃる方が多数いらっしゃると思います。そのような中にはありますが、今月25日、26日の当初の山梨大会の開催予定日が過ぎました。本来なら、誘導スタッフを配置して、皆さんをお迎えするはずだった甲府駅、懇親会の会場の近くを通りましたが、コロナの影響とはいえ、ネット開催となり、悲しいわけではありませんが、苦笑いと言いますか、空を見上げたくなり、西の空には何とも言えない三日月が静かに光っていました。

開催前、最後のメルマガ、どうぞお付き合い下さい。

開催方法の変更に伴い登壇予定の方にはファイル作成などでご負担をおかけ致

しました。大会長の役得として、皆さんに先立ち、ファイルを楽しみながら視聴しています（問題がないかのチェックです！）。

今回、会員ではない3人の先生に講演をお願いしていました。その先生方の講演をダイジェストでご紹介します。

京都の、芝伸太郎先生には、特別講演をお願いしました。大会テーマの「うつを生きる」の産みの親の先生です。

先生は、メランコリー、労働、についての時代的変遷をギリシャ時代！まで遡り詳説して頂きました、精神病理学の重鎮の先生ですが、「分かりやすくお願いします」との私のリクエストに応じて頂きました。それでも十分、難しさはありますが、今後のリワークへの提言も頂き、感慨深いです。リワークをやる方の生涯教育に入れたい内容です。おそらく私たちは、リワークをやり続ける限り、うつについて再考を重ねない訳にはいかない、と思いました。

北川信樹先生には、治療技法について、cbgtについてのシンポジストをお願いしました。

Cbgt については相変わらず圧倒される内容でしたが、そのみならず、認知リハ、社会認知、についても言及頂きました。技法に走り過ぎない事、個別面接の活用、そもそも医療リワークにおいて医療者が何をするか、などについての示唆に富んでいます。リワークで出てきた課題が、個別面接、診察場面で出た時に、さらにリワークの場面に戻す、という事では、つい、診察場面に課題が戻ってくると、しめしめ、とにやけて、「そうだよ、そこだよ」と言って、終わらせた自分には、喝！、でした。

福岡の中島美鈴先生には、公開講座をお願いしました。YouTube で一般公開されます。今日、私の自宅近くの八ヶ岳のパン屋さんにもチラシを貼ってもらいました。

先生には、時間管理についてお話し頂きました。間に合わない、遅れる、無駄な事を割り込ませてしまう、先送りする、、、 多くの方にとって痛いテーマです。

集団での扱い方（認知の最適化、行動変容へのアプローチ）、個人で利用出来るアプリの紹介まであり、至れり尽くせりでした。Cbgt の専門家として、多くのご著書もあり、国際学会でも発表なさっている先生です。大会にご尽力頂き、大

変更が難しかったです。

先生方の講演を含めた、全プログラムを5月15日より6月5日までの会期で、公開します（ランチョンセミナーは1回のみでの発信です、公開日は改めてHPで告知致します）。

<https://utsu-rework3.secand.net>

また、各団体と協議し、日本医師会生涯教育単位、日本精神神経学会専門医単位（3単位）、日本作業療法士協会研修ポイントを、インターネット開催でも取得可能となりました。日本臨床心理士資格認定協会ポイントについても申請予定です。

事前参加登録は、4月30日までですので、あと少しです、最後のしつこいお願いになります（汗）

多くの皆様のご登録を心よりお待ちしております。